



愛知の生物多様性保全のためのプロジェクト

生物多様性チーム

大見 正、山本 純、櫛田敏宏、山本恭史

チューター：九里徳泰、後藤尚弘

現状の把握(課題認識)

近年生態系のバランスが崩れ、生物の多様性が脅かされているという報告が出されている。人間の活動によるものが多く、身近な自然で起こっている変化や、生物多様性の重要性についての理解を深める活動が求められている。企業活動の中にも、生物多様性の保全や、生物資源の持続的な活用などを取り入れていくことがのぞまれる。こうした現状から、提言の基本的な視点として、(1)理解と普及 (2)参加と協働 (3)保全と再生 (4)地域での展開を掲げ、これらをもとに提言を行うことにした。

2020年に向けての提言の概要

愛知県の生物多様性の保全を推進するために、人作りの観点から「学校における教育」、絶滅種をなくす観点から「稀少種の保護拡大」、生態系の再生の観点から「里山里海再生」企業も関わる必要という観点から「生物多様性とCSR」という4つの提言をする。



提案の内容

- | | |
|---------------|--|
| (1) 学校教育 | 愛知県の生き物地図を作ろう! |
| (2) 保護の拡大 | 愛知県絶滅危惧種保全ネットワーク |
| (3) 里山・里海の再生 | 「あいち県産割り箸」プロジェクト
「藻場の再生」プロジェクト |
| (4) 生物多様性とCSR | 愛知版B&Bイニシアティブ
国際的環境ビジネスの拠点づくり
生物多様性基金の設立 |

- (3) 里山・里海の再生
森林地域における生物多様性の確保 - 「あいち県産割り箸」プロジェクト
里海の再生 - 「藻場の再生」プロジェクト
- (4) 生物多様性とCSR
「愛知版B&Bイニシアティブ」の創設
国際的環境ビジネスの拠点づくり
生物多様性基金の設立

提案実現のための具体的な取り組み(アクションプラン)と実現可能性

- (1) 学校教育 - 2009年(平成21年度)に、愛知県内(名古屋市を含む)の学校で児童生徒が生き物調査を行う。COP10開催という背景もあるので、実現可能性は高いと考えられる。
- (2) 保護の拡大 - 「愛知県絶滅危惧種保全ネットワーク」の立ち上げ - 保護されていない絶滅危惧種がある場合は、自治体や環境NPOに保護を働きかけ、保護する態勢を作る。是非実現したい。
- (3) 里山・里海の再生
森林地域における生物多様性の確保 - 「あいち県産割り箸」プロジェクト - 象徴的な取り組みとして県産間伐材を用いた割り箸の利用を促進する。また、森のエコツーリズムなども企画する。
里海の再生 - 「藻場の再生」プロジェクト - 地元自治体等や学校を通じて、県民にも参加を呼びかけて実施する。
- (4) 生物多様性とCSR
「愛知版B&Bイニシアティブ」の創設 - CSRに生物多様性の考え方を取り入れてもらうために、メッセナゴヤで2010年に、ビジネスと生物多様性のセミナーや、シンポジウムを開催し、啓発普及を図る。
国際的環境ビジネスの拠点づくり - メッセナゴヤをベースにして、参加企業にも国内だけでなく海外にも対応できるように、JETROなどとも連携して、開催する。
生物多様性基金の設立 - 10億円の基金で年1000万円の果実を目標にする。基金の管理配分は、愛知県が主体となって行基金に協力する側のメリットをどう作り出せるかという点で、工夫がいくつか必要かもしれない。

波及効果

- (1) 児童生徒が、生物多様性を理解し、生物多様性を守ろうという意識を高める。また、教員も生物多様性の重要性和保全の大切さを認識できる。
- (2) 保護の拡大 - 保全されていない種の保全、意識向上、県民に広く絶滅危惧種保全の重要性が伝わる。
- (3) 森林地域における生物多様性の確保、里海の再生、生物多様性とCSRの普及。
- (4) 愛知県がCSRと生物多様性の指針を率先して示し、主要企業が取組を始めることで、傘下の企業への波及や、国際的な先導的な取組みとして、大きな波及効果が期待できる。国際的環境ビジネスの拠点づくり。活動団体にとって、安定した活動資金の提供と民間との連携により、活動自体への理解と参加が期待できる。
- 4つの提言を実施することにより、多くの県民に生物多様性保全の意識が定着し、2020年には、人が生態系の一部として他の生物とうまく持続的に共生できる地域となっていることが期待できる。